

「土木広報大賞 2018」応募用紙

団体名： 一般社団法人 静岡県建設コンサルタンツ協会		
代表者氏名：森崎祐治	所在地：〒420-0858 静岡市葵区伝馬町9番地の7 塚本ビル2階	
担当者情報	氏名：吉野 通範	所属部署：静岡県建設コンサルタンツ協会 技術研究部会
	電話：054-272-3003	E-mail： info@sz-cca.com

土木広報活動または作品名：CON! CON! 富士山の体積をはかる「アイデア」大募集!

広報活動または作品の概要

富士山の体積をはかる! 「アイデア」大募集!

静岡県建設コンサルタンツ コンテスト



【動機】

建設コンサルタントの仕事は一般への認知が低く、仕事内容を伝えようと思っても表現が難しい。そこで、「富士山の体積をはかる」という課題を投げかけて、若い世代を含む一般の皆様には仕事を紹介するきっかけづくりを行った。

<コンテストの概要>

- 富士山の体積をはかる「アイデア」を競い合うコンテストを開催
- 年齢問わず、個人でもチームでも応募が可能
- アイデアの表現方法も自由。YouTubeを使った動画で応募も可

【広報活動】

1. ポスター・チラシ・動画を使って「富士山のアイデアをはかるアイデア大募集!」を告知
 ポスター：①静岡県内の電車にて掲出 ②静岡県内の教育機関・公共施設等に配布
 募集動画：静岡県建設コンサルタンツ協会からの「挑戦状動画」を作成し、話題を拡散
 ※静岡県が実施する「静岡どぼくらぶ」と連携し、YouTubeにて配信
2. コンテストの開催をメディアへリリースし、協会をあげて取材に対応
 ①テレビ局への「挑戦状動画提供」 ①テレビ取材の対応 ②ラジオ出演 ③新聞各紙への取材対応
3. 表彰式を開催し、入賞作品を発表・公開
4. 実際に富士山の体積を算出した「回答動画」を発表・公開し、動画を通じて仕事内容を紹介



電車内掲出ポスター



募集動画 <https://youtu.be/9x8kqVLqdvE>



回答動画 <https://youtu.be/ltAPx6yfsUM>

【工夫】

- 静岡県建設コンサルタンツコンテスト=CON!CON! (コンコン) という愛称・デザインで訴求した。
- 応募締切日を2月23日(富士山の日)とした。
- オープンしたばかりの静岡県富士山世界遺産センターにて表彰式を行った。
- 募集内容を「アイデア」とし、親子や小学生が参加できる企画とした。

広報活動の効果

【募集の成果】

アイデア応募総数：707

- 北海道から九州まで、全国各地からアイデアが集まった。
- 7歳の小学生から主婦、ご年配の方まで、幅広い世代の方が参加してくれた。

【学生・学校による参加実績】

学校の授業や活動で取り組んでいただくことができ、「建設コンサルタント」の仕事を知っていただくきっかけを創出することができた。

- あ！ピンと来た測量隊（全国の地学好き高校生の集まり） ●洛北A（科学の甲子園へ参加チーム）
- 鎌倉女子大初等部 ●青森県立三本木高校 ●枚方市さだ中学校 ●静岡市立服織小学校
- 富士市立鷹岡中学校 ●静岡北中学校 ●静岡県立韮山高等学校 ●静岡県立富士宮東高等学校
- 静岡北高等学校 ●静岡県立静岡高等学校 ●静岡県立磐田農業高等学校

【メディア取扱い実績】

テレビ：●TBS（首都圏、北日本圏） <https://youtu.be/CGvs3aDOzbg>

- 福岡KBC（九州・山口） ●福岡放送（九州） ●静岡朝日テレビ（静岡）

新聞：●読売（全国版） ●朝日新聞（全国版） ●東京新聞 ●読売KODOMO新聞

- 静岡新聞 ●日本経済新聞（静岡版）

ラジオ：●NHKラジオ第一（全国） ●SBSラジオ（静岡） ●K-MIX（FM・静岡）

【WEBアクセス状況の向上】

- 開催期間1月～3月の静岡県コンサルタンツ協会ホームページへのアクセス数が前年の約10倍に増加
- 「富士山の体積」等のキーワードでCON!CON!に関わる情報が上位表示

富士山 体積

検索

【成果のまとめ】

- 専門的な内容を控えめに、「はかるとの楽しさ」を前面に出して一般の方に興味を持ってもらったことが、多くの応募に繋がった。さらに、興味を持った方が、当協会のHPを閲覧したり、応募の為に自分で勉強したことで、「押しつけではない 理科や数学の楽しさ」「建設コンサルタントの仕事」「ICT化が進む建設土木」「土木の仕事のダイナミックさ」などを知ってもらえる事に繋がった。
- 学校の先生に興味を持っていただくことができ、高校までの教育の中で話題にさせていただくことができた。また、結果として応募にはつながらなかった学校の先生からの問い合わせも有り、教育者の関心は高いようであった。
- 多くの報道関係者が、高速道路の工事に設計図が必要な事を知らないことがわかり、さらに取材を通じて、身近な小規模な土木工事でも同様な認識であったため、どんな土木工事でも設計図が必要な事を説明することができた。また、建設コンサルタントの協会は、建築士事務所や建設会社の建築設計担当者の集まり（土木には設計者がいない）と思われていたので、この点も今回の報道関係者だけには説明できた。

これらの事から、業界内だけで高い評価をしたり満足する広報では、一般の人の理解は得られないという事を実感できた。また我々地方の地域建設コンサルタントにも、工夫次第で、全国的な広報が可能なおも経験できたので、今後は地域建設コンサルタントの認知向上と併せて地位確立も目指していきたい。

付属資料の提出

■あり・□なし（どちらかに印（■）を付けてください。）